

第59回富山県中学校剣道選手権大会



期日 令和3年7月17日(土)

審判・監督会議 8:30～ 開会式 9:00 試合開始 9:20

会場 砺波体育センター

(砺波市表町18番6号 TEL 0763-32-5240)

主催 富山県中学校体育連盟
共催 富山県教育委員会 砺波市教育委員会 (公財)富山県体育協会
(一財)富山県剣道連盟 讀賣新聞北陸支社
主管 富山県中学校体育連盟剣道専門部

15 剣 道

- 1 期 日** 令和3年7月17日(土) 審判・監督会議 8:30
 開始式【女子】 9:00 個人戦開始 9:20 ~
 団体戦開始 10:10 ~ (予定) 表彰式 12:50 ~ (予定)
 開始式【男子】 13:30 個人戦開始 13:45 ~
 団体戦開始 14:40 ~ (予定) 表彰式 17:15 (予定)
- 2 会 場** 砺波体育センター <〒939-1366 砺波市表町18番6号 Tel(0763)32-5240 >
- 3 主 催** 富山県中学校体育連盟
- 4 共 催** 富山県教育委員会 砺波市教育委員会 (公財)富山県体育協会
 (一財)富山県剣道連盟 読売新聞北陸支社

5 大会役員 (順不同)

顧問	夏野 修	牧田 稔	野崎 広一郎						
参与	白江 勉	牧本 雄一	宮原 隆博	長田 龍介	中島 節治	大門 進			
	伊勢 博行	高瀬 利夫	嶋作 勝行	高島 雅之	塩谷 敏幸	高附 憲昭			
	中橋 文夫	水谷淳之介	木倉 隆泰	北川 明宏	中川 秀樹	浅野 浩平			
	荒俣 宗悦	久保伸一郎	本元 義明	坂井 仁美	武波 一昭	重富 洋一			
	宮永 篤	荒井 幸和	福原 忠						

6 競技役員

- 競技委員長 愛場 幸男
 競技副委員長 野村 高志
 競技委員 山田 智徳(副)、室林 潤一(副)、黒川 雄介(副)、齊藤 洋文(副)
 審判長 高島 雅之 【審判割り】 結城 貴大
 審判員 県剣道連盟公認審判員、県学校剣道連盟会員
 第1試合場【翻註】 浅野 浩平(学剣連) 第2試合場【翻註】 中橋 文夫(学剣連)
 第3試合場【翻註】 能瀬 明(中体連) 第4試合場【翻註】 末岡多賀孝(中体連)
 " 【翻註】 飯島 悠一(中体連)

記録部【主任】 室林 潤一

- 第1試合場【主任】 中島 俊行 【生徒役員】 砺波、高岡地区中学校剣道部員
 島倉 貴士 山本 隆 中西奈津子、寺崎 宏昭
 第2試合場【主任】 塩谷 和子 【生徒役員】 砺波、高岡地区中学校剣道部員
 田畑 康志 八田 剛志 北村 陽一、寺島 豊和
 第3試合場【主任】 遠藤 俊哉 【生徒役員】 砺波、高岡地区中学校剣道部員
 牛島 孝子 林 真史、水島 直純、村田 夢斗
 第4試合場【主任】 角谷 壮績 【生徒役員】 砺波、高岡地区中学校剣道部員
 宮下 昌子、本川 未来、中谷 治美、渡辺 悠人

- 記録・関係【主任】 野原夕紀恵 【係】 藤田 栄子、八下田道子、
 記録写真係【主任】 多田 幸誉、八田 剛志 (写真、データ記録担当)
 結果報告係【主任】 中川 拓也
 竹刀検査係【主任】 齊藤 洋文 【係】 犀川 啓之、八田 剛志、水島 直純、鶴飼 雅信、
 津田 昌明、杉本 千恵、竹内 奎人、相川 哲男、
 浜松 隼人、松村 陽子、岡野 ゆか
 駐車場係【主任】 今井 敦史 【係】 関川 翼、今藤 徹也、森田 遥輝
 会場係【主任】 黒川 雄介 【係】 関川 翼、今藤 徹也、森田 遥輝
 場内整備係【主任】 飯島 悠一 【係】 今井 敦史、関川 翼、今藤 徹也、森田 遥輝
 式典係【主任】 山田 智徳 【係】 五十川徳倫
 受付係【検温、チェックシート回収、IDチェック】
 【主任】 山崎 佳子 【係】 生徒・保護者；土居ゆづる、川端佐和子、小池 千恵、
 井沢はるみ、上坂 明未
 役員；水戸真美子、向 真弓、八下田道子
 審判；有澤 祐子、布目 美香、寺田 裕子
 昼食係【主任】 藤田 栄子 【係】 土居ゆづる、有澤 祐子、寺田 裕子
 救護係 寺島 直美 (庄西中) ※救護係は、応急処置のみ行うものとする。

7 日 程

開始式

- ・開 会 宣 言
- ・競技上の注意
- ・閉 式 通 告

競 技

- 午前①女子個人戦（1～4試合場） 午後①男子個人戦（1～4試合場）
 ②女子団体戦（1～4試合場） ②男子団体戦（1～4試合場）

表彰式

- ・成績発表・表彰
- ・講 評
- ・閉 会 宣 言

8 栄光の記録（歴代団体戦優勝校）12回大会までは男子のみ（13回以降は上段が男子・下段が女子）

1	2	3	4	5	6	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
高岡西部	高岡西部	庄 川	般 若	出 町	水 橋	福 野	庄 川	高岡西部	井 波	氷見北部	大 門	福 野	大 門	庄 川	小 杉	小 杉	庄 川	奥 田	井 波	大 門	雄 山	芝 園
7	8	9	10	11	12	出	石 動	出 町	出 町	氷見北部	福 野	般 若	井 波	大 門	奥 田	奥 田	奥 田	奥 田	小 杉	氷見南部	奥 田	小 杉南
町	町	川	出	野	高岡西部	町	町	町	町	町	野	若	波	門	田	南	田	田	杉	田	田	南
30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
芝 園	小 杉南	雄 山	雄 山	小 杉	大 門	雄 山	小 杉	富山北部	庄 川	井 波	山 室	山 室	芝 園	小 杉南	井 波	速 星	雄 山	山 室	山 室	雄 山	速 星	魚津東部
園	若 園	園	園	木 門	門 川	川 北	川 北	川 室	室 町	室 町	室 杉	波 川	波 川	野 川	野 川	波 川	星 波	室 山	室 山	室 山	室 山	川 室
53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
奥 田	奥 田	奥 田	奥 田	奥 田	大会中止																	
山 室	大 門	奥 田	奥 田	井 波	大会中止																	

9 今年度の成績

		男 子		女 子	
団 体 戦	優 勝	中 学 校		中 学 校	
	2 位	中 学 校		中 学 校	
	3 位	中 学 校		中 学 校	
	3位(4位)	中 学 校		中 学 校	
個 人 戦	優 勝	(中)		(中)	
	2 位	(中)		(中)	
	3 位	(中)		(中)	
	3位(4位)	(中)		(中)	
	5 位	(中)		(中)	
	6 位	(中)		(中)	
	7 位	(中)		(中)	
	8 位	(中)		(中)	

令和3年度（公財）日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項

申し合わせ事項は「剣道試合・審判規則第1条」に基づくものであり、規定外の事態は一般社会の常識で判断するものである。

【剣道試合・審判規則に関わる事項】

- 1 サポーター等（足袋、テーピング、コルセットを含む）の使用
 - (1) 医療上必要と認められた場合に限り使用を認める。使用する場合は届け出た上で、使用する。（成長過程における現状を把握するため）
 - (2) サポーターなどは、肘、膝などにつける物を足につけたり、ゴムや革及び滑り止めを底に張った物等の使用は禁止する。（相手に危害・公正さの観点から）
 - (3) 指先単独でのテーピングは届け出は不要とする。
 - (4) 届け出と違う物を使用した場合は、替えさせる。
- 2 面
 - (1) 面金を黒塗りにした面など、通常の配色でない面の使用を禁止する。ただし、日常の稽古や練習試合での使用については特に制限を設けない。
- 3 竹 刀
 - (1) 平成10年11月10日付 全剣連指導指針「竹刀の先革先端最小直径値計測方法」による。
 - (2) 平成31年4月1日改正、全剣連剣道試合・審判運営要領「ちくとうの最小直径値の計測方法」による。
 - (3) 不正竹刀を使用した場合は、試合規則第19条1、2、3を適用する。ただし、予選リーグにおいては補員の起用は認めない。決勝トーナメント戦においては、次の試合から補員の起用を認める。
 - (4) 不正竹刀とは、「ビニールやセロテープを巻いた物」「異物（先革の芯、柄頭のチギリ以外の物）を混入した物」「検印のない物」を指す。
- 4 公正を害する行為
 - (1) 「変形な構え等の防御態勢」をとった場合は、1回目は「合議」の上、「指導」、2回目以降は「合議」の上、「反則」とする。
- 5 突き技
 - (1) 禁止として反則とすることもある。（技としては反則とする）
- 6 上 段
 - (1) 上段の構えはとらせない。隻腕についてはその都度協議する。
- 7 二 刀
 - (1) 使用させない。
- 8 片手打ち
 - (1) 有効打突としない。
- 9 試合開始
 - (1) 主審の「始め」の宣告で完全に立ち上がって開始させる。（不適切な場合は、指導する）
- 10 主審の宣告
 - (1) 反則の宣告が簡略化されたが、（公財）日本中体連剣道競技部では「第3章第37条」～特に宣告に際し必要を認めた場合は、その理由を述べる～を教育的配慮として適用する。

【試合運営に関わる事項】

- 1 試合者要領
 - (1) 団体戦では、先鋒戦及び最後の試合者の対戦の場合、監督、選手ともに正座する。個人戦における監督も同じとする。
- 2 華美への配慮
 - (1) 校名・校章等の刺繍（剣道着・袴）は、大きさ、色を含めて華美にならないように配慮する。
 - (2) 面乳革は、大きさ、色、模様を含めて華美にならないように配慮し、色は黒色または紺色とする。
 - (3) 柄革は、滑り止め（ゴム等）や模様等のない無地のもので、白色とする。
※ ただし、日常の稽古や練習試合での使用については、その限りではない。
※ 柄革の上端（折り返し部分）の色・模様については、特に制限を設けない。
※ 滑り止め（ゴム等）のついた柄革の使用は禁止する。

申し合わせ事項解説

「4 公正を害する行為」について

- ・ 「変形な構え等の防御姿勢」をとった場合は、1回目は「合議」の上、「指導」、2回目以降は「合議」の上、「反則」とする。

変形な構えについての共通理解事項

(平成24年度作成)

- (1) 「変形な構え」とは
 - ・ 左拳を概ね目線より上にして、面・右小手・右胴を同時に防御する形をいう。
- (2) 「指導・反則」とならない場合
 - ・ 中段の構え等からの「応じ技」途中の姿勢
 - ・ 鏝競り合いや体当たりでの「身体的圧力」及び「攻め」による一瞬の崩れ
- (3) 見極めの留意事項
 - ・ 「変形な構え」に近い形が認められても左拳の高さが目線に達していない場合が多いので、左拳の位置を確認の基準にする。また、剣先（けんせん）が下がっているかどうかをよく見極める。
 - ・ 「変形な構え」で相手の打ちを待つ状態が確認された場合は、後から技が出ても「応じ技」途中の姿勢とは判断しない。

【指導・反則の宣告方法】

◇ 主審が合議をかける（主審の専決事項）

(1) 「指導」をとる場合

主審は選手を開始線に戻し「指導」をとる選手に近づき、審判旗を右手に持ち左手拳を明確に頭上（目の位置より高く）に上げ、「変形な構え」が認められたため「指導」をとることを説明する。次に定位置に戻り審判旗を一方に持ち、宣告を行う側の選手に対し、指を揃え手の平を内側にして、指先で概ね選手の前垂を指すように腕を上げ、「指導」と発声し宣告を行う。

(2) 「反則」をとる場合

「指導」と同じ要領で「反則」をとることを説明する。次に主審は定位置に戻り、他の反則と同じ要領で、旗を斜め下方に上げ、「反則〇回」と宣告する。

(3) 確認事項

- ・ 1回目は「合議」の上「指導」、2回目以降は「合議」の上「反則」とする。

【掲示板への記入方法】

① 赤色地に白抜き文字「指」を掲示する。

「公正を害する変形な構え」の指導は1回のみ。次からは反則となり、掲示板の①は残し、▲（反則）を新たに掲示していく。

【「変形な構え」を指導・反則事項とした理由】

生涯剣道のために大切な基礎基本を身につけなければならない中学生の時期に防御の効率のみを優先して、左拳を極端に身体の中心から外して防御に頼ることは、剣道の正しい修得を妨げるものである。剣道は一方を防御すれば一方に隙が生じ、打つときは打たれるときである。その緊張感と迷いを鍛錬と経験則による瞬時の判断で拭ききって勝負に出るところに醍醐味がある。

したがって、特に「突き技」を禁止している中学生の試合では、三カ所を同時に防御するという「変形な構え」は、左手が定まらないという見苦しさだけでなく、心の面でも剣道の良さを否定することにつながるものである。更には、いたずらに試合時間を引き延ばす結果にもなっている。

以上の理由により（公財）日本中学校体育連盟剣道競技部では「変形な構え」を指導・反則とした。

「6 上 段」について

- ・ 上段の構えはとらせない。隻腕についてはその都度協議する。

隻腕についての共通理解事項（平成23年度作成）

各都道府県で、隻腕の競技者が確認された際は、速やかに専門委員長がブロック長へ報告するとともに、「構えが公正を害する行為」とならないよう指導する。

- 「構えが公正を害する行為」となるとは
 - 片手上段で面を防御するとともに、竹刀の鐔元を所持して柄で小手を防御し、一方の腕（小手・袖等）で胴を防御するなど、三カ所を同時に防御することをいう。
- 指導する理由
 - ・ 中学生には「突き技」を禁止している。
 - ・ 中段の構えにおいても「面」「小手」「胴」を同時に防御する「変形な構え」をとった場合は「指導」「反則」の対象となる。
 - ・ 公平性、平等性等を考慮し、下記の指導をする。
- 指導内容
 - ・ 竹刀の柄頭を所持し構えるよう指導する。
 - ・ 「鐔ぜり合い」及び「打つ直前」の鐔元所持は良い。

※ 上記の指導は大会直前では、競技者の身体的精神的負担が大きいので、極力早期に報告と指導を行い、監督や競技者が練習に生かせるよう配慮する。

令和3年度「重点指導事項」について（お願い）

令和元年度第49回全国中学校剣道大会の運営及び試合・審判についての反省と今まで引き継がれてきた課題から、次年度の神奈川大会に向けて「重点指導事項」を策定いたしました。
つきましては、下記の項目について、各都道府県の大会や強化会・講習会等での積極的な指導をお願いします。

記

1 申し合わせ事項についての徹底

- (1) 「申し合わせ事項」（別紙）についてのご理解とご協力、指導の徹底をお願いします。

用具・着装全般(文字等を含む)について従来の伝統的な色や形を安易に変える傾向が若干見られますが、極力「申し合わせ事項」には加えず「指導」の形で対応します。規則に固執することなく「質実」という伝統文化の良さを積極的にご活用いただき、ご協力をお願いいたします。

2 礼法について

- (1) 蹲踞の「始め」と「終わり」を正確・丁寧に行う。

※ 「始め」抜きながら蹲踞する。

※ 「終わり」納刀した後、右手を右太股においてから立ち上がる。

◇ 詳しくは、剣道指導要領P44、45参照

- (2) 団体の礼の前後や選手交替時における余計な所作は改める。

※ 円陣を組んでの発声やパフォーマンス・胴つき、握手など

◇ 全日本剣道連盟剣道試合・審判運営要領「その他の要領」5項参照

3 その他

- (1) 危険かつ見苦しい暴力的行為は、厳に慎むようご指導ください。

- (2) 「安易に左拳を中心線から外す防御姿勢をとらせない」いわゆる「公正を害する変形な構え」について、今後も継続してご指導ください。

- (3) 「鏝競り合いの解消途中」で時間空費が目的と思われる打ちを継続する場面が見受けられます。反則行為としてご指導ください。

- (4) 面紐の長さは結び目から40センチメートル以下です。長いものが多く見受けられました。また、結び目の位置が上過ぎて試合途中で面が外れる場面がありました。危険防止として適切な位置で結ぶよう、今後も継続してご指導ください。

◇ 剣道試合・審判・運営要領の手引きP25参照

- (5) 袴など華美なものが見受けられました。華美にならぬようご指導ください。また、学校代表として出場している大会においては、学校名、校章等の刺繍やワッペン以外、剣道着の袖につけたり、入れたりしないようにしてください。袴の裾には刺繍やワッペンをつけないでください。

- (6) 試合者の名札は、生徒役員が判読しやすい字体にしてください。

- (7) 試合者が、試合中に中止要請をする場合、「タイム」と発声するようご指導ください。

付記 本件についての問い合わせ先

(公財) 日本中学校体育連盟
剣道競技部長 國原 宣昌
福島県福島市立北信中学校内
TEL 024 (553) 5049

令和2年10月22日

(公財)日本中学校体育連盟
剣道競技部 各ブロック長 様
各都道府県剣道専門委員長 (部長) 様
各中学校剣道部顧問 様

(公財)日本中学校体育連盟
剣道競技部長 國原 宜昌
(公印省略)

全剣連発出「主催大会実施にあたってのガイドライン」
を受けての試合・審判に関する統一事項 (通知)

紅葉の候、皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より、(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年8月27日付で、全剣連より「主催大会実施にあたってのガイドライン」が発出されました。現在それぞれの地域においてこのガイドラインに沿って新人戦等が展開されているところですが、これまでに無い状況での試合・審判に、戸惑いや解釈の差が出ているものと思われま

す。つきましては、以下に、全剣連ガイドラインの中体連剣道競技部としての捉え方及び、別紙にて、次年度神奈川全中における試合・審判の仕方をお知らせいたしますので、共通に取り組んでいく事項としてご理解ください。

現在コロナ禍であり、収束の兆しも見えておりません。今後の試合・審判に関しましては、「感染防止」が最重要事項です。感染しないための試合・審判であることを全体で共有し、統一感を持って指導にあたって参りたいと思っております。ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

記

全剣連ガイドラインより

【暫定的な試合・審判の方法】

3. 試合者は、鏝競り合いを避ける。やむを得ず鏝競り合いとなった場合は、すぐに分かれるか引き技を出し、掛け声は出さない(引き技時の発声は認める)。審判員は鏝競り合いを解消しない場合は、ただちに「分かれ」を宣告する。

1 鏝競り合いについて

- ① 上記、ガイドラインの通りとする。
- ② 「鏝競り合いの解消」は、お互いに一旦間合いを完全に切ることにする。

2 指導について

- ① 鏝競り合いをしない試合を心がけさせる。
- ② 鏝競り合いになってしまった場合の対処。(「分かれ」が多用されないように)
 - ・ やむを得ず鏝競り合いとなった場合はただちに分かれるか引き技を出す。
 - ・ 「鏝競り合いの解消」は、お互いに一旦間合いを完全に切る。
- ③ 反則となる行為。
 - ・ 一方が分かれようとするところに着いていく、追いかける行為は、反則となる。
 - ・ 「鏝競り合いの解消」途中で、完全に間合いが切れてないところで前に出る、技を出す行為は反則となる。

3 審判について

- ① 鏝競り合いに入った後、ただちに分かれるか引き技を出さない場合、「分かれ」をかける。

4 その他

上記「1」「2」について、新しい試合方法であること、また、成長途中であり、技量や経験に差がある中学生への指導であることを踏まえ、「鏝競り合い」「鏝競り合いの解消」及び、「ただちに分かれる」「ただちに引き技を出す」「完全に間合いを切る」「反則となる行為」等のことに関して、普段の部活動における指導はもとより、講習会、錬成会、大会の折にも、具体的且つ丁寧な指導を行い、定着を図る。

令和3年度 富山県中学校体育連盟 剣道専門部申し合わせ事項

※令和3年度（公財）日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項を遵守する。

1 試合規則

- ① 紅白の目印（5cm×70cm）は各校で用意し、取り付け・取り外しをする。
- ② 出場選手は、布製の名札を着用する。黒または紺地に白文字とし、学校名（県名禁止）、氏名を明記する。同姓の選手がいるときは、名前の頭文字を書く。
- ③ 平成10年11月10日付全剣連指導指針「竹刀の先革先端最小直径値計測方法」に合致した竹刀を使用すること。また検量を行い、検印のある完全なものを使用すること。検印のない竹刀や不正竹刀を使用した場合は、二本負けとし、以降の試合への出場権を認めない。ただし団体戦のトーナメント戦は、補員の充当を認める。（リーグ戦では認めない。）
- ④ 竹刀については、以下の表の基準に従う。

長さ			114センチメートル
重さ	男 子		440グラム以上
	女 子		400グラム以上
太さ	男子	先頭部最小直径	25ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	20ミリメートル以上
	女子	先頭部最小直径	24ミリメートル以上
		ちくとう最小直径	19ミリメートル以上

- ⑤ つばについては、革色のもの（白色も可）を使用する。それ以外のものを使用している場合は、その場でつばあるいは竹刀全部を取り替えさせる（竹刀は検査に合格したものであること）。また、つばの大きさは直径9cm以下とし、竹刀に固定する。
- ⑥ 着装はしっかりとすること。その際、面紐の長さは結び目から40cm以内であること。長いと判断された場合は、試合を直ちに中断し、監督の責任で切断する処置を行う。また誤審を防ぐため、赤系統の面ひもの使用を禁止する。
- ⑦ 選手が足の負傷のときは、片方のみ足袋・サポーター（剣道用として市販されているもの）の着用を認める。テーピングについては、両足の使用を認める。これらについては、申請の必要はないものとする。
- ⑧ 女子の「蹲踞」は、男子と同じ姿勢をとること。また、礼法は確実に行うこと。
- ⑨ 試合中の応援は所定の場所で行い、拍手のみとする。
- ⑩ 団体戦において選手の人数が足りない場合は、右記を参考にしてチームを構成すること。

選手人数	先	次	中	副	大
4人	○	△	○	○	○
3人	○	△	○	△	○

 - ア. 選手的人数が4人の場合は、次鋒を空けることとする。
 - イ. 選手的人数が3人の場合は、次鋒と副将を空けることとする。
 - ウ. 選抜大会（新人大会）の団体戦において人数が不足しており単独チームで編成する場合も上記のとおりとする。
 - エ. 選手的人数が2名の場合は、団体戦に出場することはできない。
- ⑪ 選抜大会（新人大会）における複数校合同チームによる参加は、富山県中学校選抜体育大会に関わる複数校合同チーム編成規程・同剣道競技細則を遵守することで認める。合同チームの編成条件として、部員数が3名未満であること、同一地区の2校間であることとする。

2 審判規則

- ① 審判員合議の上反則を宣告する場合は、教育的配慮として反則者にその理由を述べる。その後宣告は、「反則○回」と行う。
- ② 「変形な構え等の防御態勢」（三所隠し）については、①と同様に主審が判断し合議をかけ、三者で決断する。教育的配慮として、当該選手に口頭で指導内容を述べるが、その際「左拳を頭上に挙げる」動作を行い、選手のみならず監督・観客に指導事項が分かるようにする。その後定位置に戻り、主審は手の指をそろえた状態で当該選手の前垂れを指さすようにし、「指導」と宣告する。掲示板には図と表示する。以降については、「反則」とみなす。ただし、当該選手の「指導」が対戦相手に重複することはない。
- ③ 男女とも試合中に倒れた場合は、一呼吸おいて止めをかける。

3 試合運営

- ① オーダー表は、各学校で用意し、大会当日本部へ提出する。

	先	中	大
富山	○	○	○
(男)	○	○ 明	○ 男

模造紙を縦長に4分の1に切ったものを6つ折りにして、左から学校名(男女別)、先鋒・次鋒の順に書く。
同姓の場合は、名を1字書く。

- ② 身体的な諸事情で試合に疑問のある場合は、大会本部まで連絡し監督会議で諮ること。
- ③ 参加申し込み以降に、けが・病気などにより出場できない選手・補員が生じた場合には、その選手・補員の登録を抹消し、新たに補員の補充をすることができる。この場合には診断書を大会本部に提出し、監督会議の席上で許可を得ること。
- ④ 補員の起用は試合前までに監督が試合場主任に申し出ること。なおこの場合、補員は交替者の位置とし、オーダー変更と交替者の再出場は認めない。
- ⑤ 選手交替の際の胴突き・握手等の動作は禁止とする。
- ⑥ 団体戦開始における、団体の礼の後の集合(円陣・関の声など)は、控えるよう努力する。

4 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止

以下の内容について共通理解し、大会を行う。

- ① 全日本剣道連盟「大会ガイドライン」
- ② 富山県剣道連盟「主催大会開催にあたってのガイドライン」
- ③ 富山県中体連剣道専門部「大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン」
- ④ 令和2年10月22日付全剣連発出「主催大会実施にあたってのガイドライン」を受けての試合・審判に関する統一事項(通知)と令和3年2月配布の解説映像
- ⑤ 令和2年10月23日付「神奈川全中」における試合審判について
- ⑥ 令和3年5月付「富山県中体連剣道専門部審判講習会報告事項」

第59回富山県中学校剣道選手権大会ベストマナー賞選出について

富山県中学校体育連盟 剣道専門部

1. 設置理由

富山県中学校体育連盟が主催する県中学選手権大会は、県内中学生にとってスポーツの頂点を決める最も重要な大会です。そして地区大会を勝ち上がってきた選手、指導者、応援者は地区代表としての誇りをもち大会に参加しています。それ故、その大会はそれの相応しい雰囲気を実施され、その参加者には、大会に相応しい選手、指導者、応援者としての参加態度が求められます。

本連盟は、競技力や技能の向上を目指すとともに、正々堂々としたプレーや、さわやかな言動、礼儀、応援態度、大会運営に協力する姿勢などが、中学生期に身に付けてほしいスポーツにおける重要な価値であると考え、他校の模範となる「マナー」を身に付けた学校を賞揚し、競技成績とともに表彰対象とすることとします。（富山県中学校体育連盟設置基準より）

剣道専門部では、この大会が「剣道の理念に基づき、日本の伝統文化である剣道を正しく継承し、剣道を通じて次代を担う子ども達の健全育成を図るとともに、中学校剣道の質的向上が促進され、親睦と切磋琢磨の剣道」が子ども達によって、永く表現される大会であることを祈念し、礼節の模範となる学校（男女各1校）に「ベストマナー賞」を贈ることとします。

2. 選考について

ア. 選考委員会は、専門部長を会長とし、専門委員長が選考委員長を兼ねる。

選考委員は、強化部長1名、各地区主任(富山市委員長)4名、執行委員1名の計6名とし、会長・委員長と合わせて8名で委員会を構成する。

イ. 有識者委員会を附則する。

有識者委員会は、各試合会場の会場主任4名、審判主任4名によって構成され、選考データを選考委員長に提出するものとする。

ウ. 剣道の発展を考え、マナーと実力の双方を兼ね備えた学校を選出するため、トーナメント戦上位4校を選考の対象とする。

エ. 評価項目を5つとし、それぞれを5段階で（5～1）で評価する。

有識者委員8名×5項目5段階＝200

選考委員10名×5項目5段階×2倍＝500 の計700点満点とする。

オ. 評価項目は、

- ① 正々堂々とした試合態度
- ② きびきびとした行動
- ③ 礼儀正しい態度
- ④ 大会運営に協力する姿勢

カ. 閉会式前に、選考委員会を開き、データを集計する。

ただし、データはあくまで、選考のための「参考材料」とする。

キ. 決定は選考委員会会長が行う。

3. 選考の対象となる場面

大会日程	試合会場	会場の外
開場前	評価項目①～④について選考委員の目で選手の言動を見る	評価項目②～④
準備体操 竹刀計量	※担当主任の先生方からの意見を伺う	
開会式 試合中	※各試合会場の会場主任、審判主任の先生方の意見	
昼食時	ベストマナー賞選考委員会 男女の受賞候補を数校選出する	
閉会式前	最終決定	

4. その他

全日本剣道連盟制定の「剣道の理念」です。

(財) 全日本剣道連盟 昭和50年3月20日制定
<h2>剣道の理念</h2> <p>剣道は 剣の理法の修練による 人間形成の道である</p> <p>～剣道修練の心構え～</p> <p>剣道を正しく真剣に学び 心身を錬磨して 旺盛なる気力を養い 剣道の特性を通じて 礼節をとうとび 信義を重んじ 誠を尽くして 常に自己の修養に努め 以て 国家社会を愛して 広く人類の平和繁栄に 寄与せんとするものである</p>

<選手名簿（個人戦）>

男子個人								
順位	新川地区				砺波地区			
	学校	監督	選手	学年	学校	監督	選手	学年
1	雄山	高田 哲宏	今村 勇	3	井波	高田 毅	水口 珂那人	3
2	雄山	高田 哲宏	松井 信	3	庄西	犀川 蒼之	片山 俊祐	3
3	朝日	山田 智徳	松山 琥珀	3	福野	津田 昌明	荒井 颯仁	3
4	魚津東部	有澤 祐子	八田 健太郎	2	出町	齊藤 洋文	朝倉 昌秋	2
順位	富山市				高岡地区			
	学校	監督	選手	学年	学校	監督	選手	学年
1	奥田	西 裕太郎	増田 成一郎	3	大門	黒川 雄介	杉岡 央麿	3
2	山室	下山 琢也	二橋 海斗	3	大門	黒川 雄介	池原 幸宏	3
3	奥田	西 裕太郎	武部 愛大	3	高陵	大村 彩	堀井 晴奈仁	2
4	奥田	西 裕太郎	田近 謙	3	志貴野	末岡多賀孝	水戸 一希	3
5	山室	下山 琢也	中野 仁太	2	大門	黒川 雄介	鏡 光太郎	2
6	速星	布目 美香	清水 京介	3	牧野	山本 隆	長谷川 朔哉	3

女子個人								
順位	新川地区				砺波地区			
	学校	監督	選手	学年	学校	監督	選手	学年
1	雄山	高田 哲宏	内田 結心	3	井波	高田 毅	高橋 奏乃	3
2	雄山	高田 哲宏	大島 小百合	3	庄川	白山 昌人	太田こころ	3
3	雄山	高田 哲宏	野中 瑞姫	3	庄川	白山 昌人	朝日 月楓	3
4	魚津西部	浜松 隼人	坪井 朝美	2	出町	齊藤 洋文	平林 凜子	3
順位	富山市				高岡地区			
	学校	監督	選手	学年	学校	監督	選手	学年
1	奥田	多田 幸誉	寺前 明保	3	芳野	島倉 貴士	高沢 めい	3
2	呉羽	末上 裕也	三國 かな子	3	高陵	大村 彩	松島 和泉	3
3	富大附属	飯島 悠一	坂巻 滯	3	大門	杉岡 史麿	金森 咲友菜	3
4	山室	下山 琢也	矢合 明里	3	氷見南部	川端佐和子	越田 結実	2
5	堀川	森 紗矢香	林 あい	3	芳野	島倉 貴士	室崎 莉子	3
6	北部	室林 潤一	須川 こころ	3	大門	杉岡 史麿	北條 美空	3

<選手名簿 (団体戦)>

男子団体

①新川地区

学校	監督	先鋒	学年	次鋒	学年	中堅	学年	副将	学年	大将	学年	補員1	学年	補員2	学年
雄山	高田 哲宏	三橋 悠輝	3	澤崎 諒介	3	澤田 悠太	3	松井 信	3	今村 勇	3	寺崎 翔月	2	窪 蓮士	1
朝日	山田 智徳	松下 卓矢	2	弥志田 快	2	牧野 颯大	3	才津 周	3	松山 琥珀	3	近藤 楓雅	2	大平 運太郎	1
滑川	上坂 明未	黒崎 大翔	3	金山 和輝	2	恩田 悠雅	3	大崎 遼介	2	松村 凌空	3	岡本 悠太郎	2	山崎 斗真	2
入善	寺島 豊和	吉野 柑太郎	2	亀田 碧海	2	石堂 寿晴	2	下飯野 蓮斗	3	杉本 奏	2				

②富山市

学校	監督	先鋒	学年	次鋒	学年	中堅	学年	副将	学年	大将	学年	補員1	学年	補員2	学年
奥田	西 裕太郎	武部 愛大	3	作農 智史	2	高橋 杏瑠	3	増田 成一郎	3	田近 謙	3	佐藤 太陽	1	堀口 頼史	1
富大附属	橋本 雅信	金枝 遼太郎	2	石井 巧真	1	大木 瑞紀	3	宇尾 徳太郎	2	川原 悠大	3	盛田 悠生	2	山下 陽翔	2
山室	下山 琢也	稲田 智久	2	中川 侑星	1	山口 大生哉	2	中野 仁太	2	二橋 海斗	3	森 蓮太郎	2	今西 晶輝	2
速星	布目 美香	八重崎 蓮斗	1	古賀 悠太郎	3	横井 颯刀	2	勝田 菜苑	3	館 飛向	3	清水 京介	3	小谷 龍治	2
呉羽	末上 裕也	西田 親平	1	島津 孝輔	3	横山 琉	3	稲瀬 亮太	3	小山 樹	3	牧野 凌太	2	倉川 嵩清	1
片山学園	相川 哲男	松木 鼎琉	3	鈴木 暁平	2	斉藤 迅	3	古川 誠太郎	3	野村 律輝	3	松木 伶生	1		

③高岡地区

学校	監督	先鋒	学年	次鋒	学年	中堅	学年	副将	学年	大将	学年	補員1	学年	補員2	学年
大門	黒川 雄介	鏡 光太郎	2	長濱 昊来	2	森原 侑久	3	池原 幸宏	3	杉岡 央磨	3	森澤 征四朗	3	手崎 泰輔	2
牧野	山本 隆	野村 吉伸	3	飯塚 啓	3	福田 悠真	3	姫野 淳吾	3	長谷川 朝哉	3	綿谷 湧生	3	澤 大貴	2
小杉	村中 眞	田邊 豪士	1	亀田 真	2	稲垣 虎次郎	2	中岡 稜凱	2	長井 暖和	2	子川 誓成	2	石田 京慎	2
五位	杉本 千恵	神保 快成	3	今村 有太郎	2	石川 廉	3	竹村 昊華	3	竹下 佑人	3	山下 翔	3	泉 哲矢	3
南星	結城 貴大	井上 一汰	2	高島 匠音	2	河口 知樹	2	萩井 航成	2	笠島 大雄	2	山内 寿晃	2	大谷 征巳	2
射北	藤田 恵三	室林 凛斗	2	綿谷 良介	2	中島 康顕	3	由井 嵩矩	3	松永 佑太	3	小竹 暉喜	2	岩木 舜	2

④砺波地区

学校	監督	先鋒	学年	次鋒	学年	中堅	学年	副将	学年	大将	学年	補員1	学年	補員2	学年
井波	高田 毅	辻村 陽音	2	遠藤 庚伸	2	高橋 凛成	1	野村 立心	3	水口 珂那	3				
庄川	白山 昌人	吉田 蒼駿	2	山脇 歩	1	玉井 健慎	2	石黒 巧真	3	山脇 一	3	水上 陸弘	2	藤森 一颯	1
福野	津田 昌明	原 那月	3	小中 颯磨	1	橋爪 裕紀	3	河除 天地	3	荒井 耀仁	3	嶋 一希	2		
出町	齊藤 洋文	岡野 蒼矢	1	平林 蓮士	1	加藤 慎之助	2	本田 政太郎	2	朝倉 昌秋	2				

女子団体

①新川地区

学校	監督	先鋒	学年	次鋒	学年	中堅	学年	副将	学年	大将	学年	補員1	学年	補員2	学年
雄山	高田 哲宏	大島 小百合	3	松井 菜奈	2	内田 結心	3	安田 心優	2	野中 瑞姫	3	寺崎 紀代里	3	相岡 信乃	3
滑川	五十川 徳倫	森 美咲	3	松原 愛理	3	能島 環華	3	篠崎 綾乃	3	池田 亜美花	3	吉山 このみ	3	米山 姫夏	2
明峰	八田 剛志	坂藤 礼菜	2	木倉 菜南	2	山田 優華	3	橋本 桜菜	2	竹山 綾音	3	大久 保華	1	松倉 天音	1
魚津東部	有澤 祐子	小澤 月華	3	大森 清良	2	吉崎 愛唯	2	小澤 知夏	2	澤田 桃香	3	竹 優花	1	村藤 悠月	1

②富山市

学校	監督	先鋒	学年	次鋒	学年	中堅	学年	副将	学年	大将	学年	補員1	学年	補員2	学年
奥田	西 裕太郎	佐伯 知香	2			植山 歩	2	高指 里彩	2	寺前 明保	3				
呉羽	末上 裕也	堀内 晴	2	平井 雪穂	3	高山 咲笑	2	三國 かな子	3	奥村 望乃果	1	柳瀬 智依	2	森田 実也子	2
速星	荒井 可南子	太田 結衣	3	折谷 優那	3	水口 友葉	3	島瀬 心遥	2	大石 菜奈	3	市川 美惟	3	二橋 瑞妃	2
新庄	中川 拓也	永井 陽香	2	上野 ちあみ	2	杉山 和果	2	大塚 由那子	1	徳田 恵梨佳	3	今井 弥空	1		
堀川	森 紗夕香	森川 結友	2	佐渡 優心	2	西村 清	2	中井 奏音	2	林 あい	3	小俣 蘭々	2	久保 悠	2
芝園	寺崎 宏昭	黒川 蘭	3	吉岡 美々子	2	織田 愛子	3	高西 こころ	3	山岸 万佑子	3	犬田 有紀	1	山本 菜々望	1

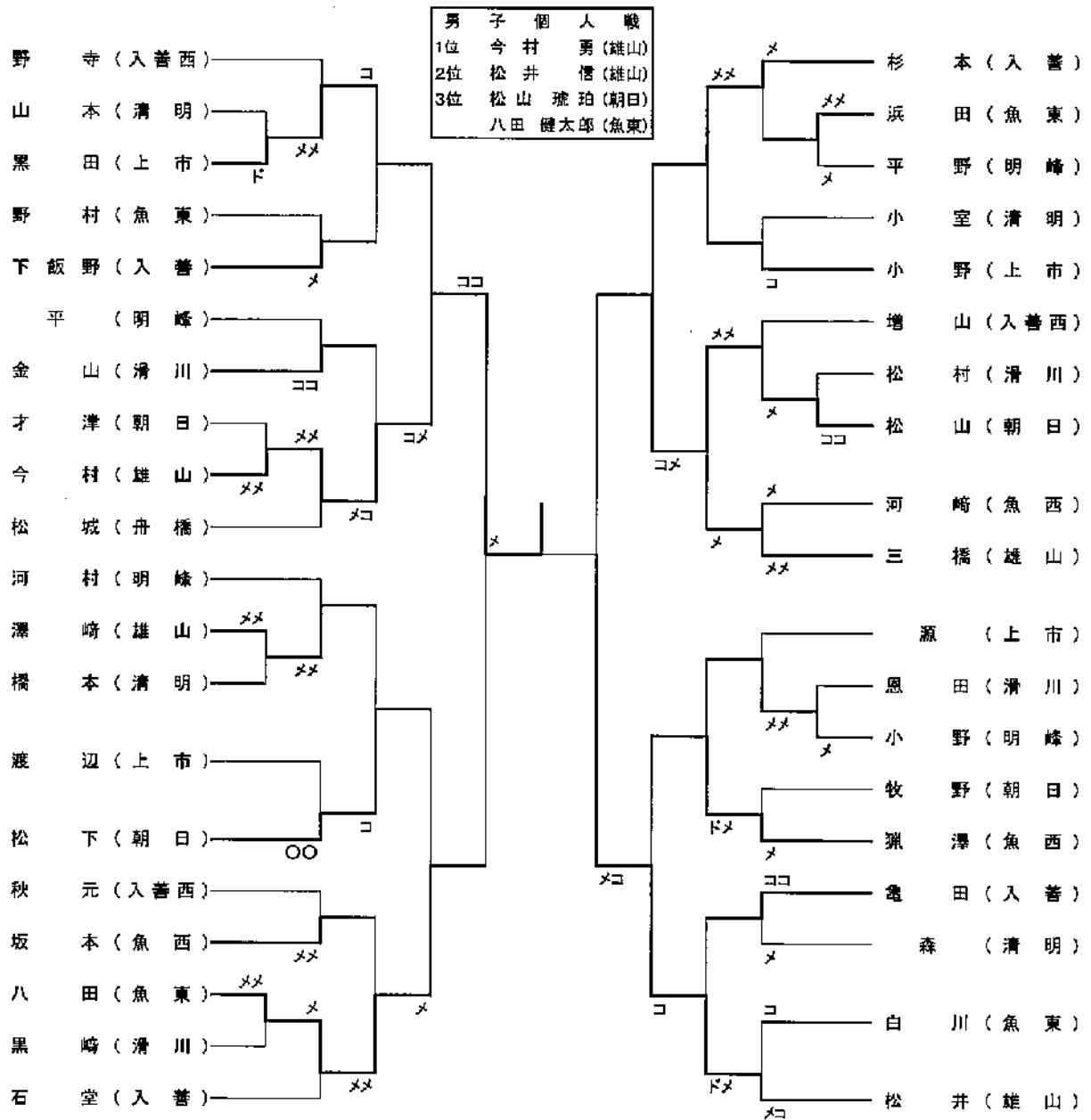
③高岡地区

学校	監督	先鋒	学年	次鋒	学年	中堅	学年	副将	学年	大将	学年	補員1	学年	補員2	学年
高陵	大村 彩	中川 はる香	3	沖崎 友香	2	佐野 志帆	3	和泉 詩奈	3	松島 和泉	3	片岡 千鶴	2	室崎 百音	2
大門	杉岡 史磨	北條 美空	3	澤井 玲奈	3	宮林 色圭	3	惣田 唯月	2	金森 咲友葉	3	須賀 瑞希	3	小川 晃代	1
小杉南	向 真弓	江本 遙	3	青山 璃子	3	金田 馨子	3	尚野 美穂	3	三角 音々	3	秋元 七海	2	佐渡 瑛理香	2
南星	結城 貴大	伊勢 彩花	2	中西 詩音	2	本保 詩織	3	増山 詩桜	3	布目 琴弓	3	中村 朱里	1	金岡 恵	1
福岡	井沢 はるみ	中川 柚花	2	佐々木 朝香	3	高田 夏実	3	池田 ソフィア	3	高多 玲那	3	小山 侑莉	3	橋本 結那	2
戸出	渡辺 悠人	遠藤 菜奈	1	西田 美月	3	吉井 遥菜	3	寺口 菜摘	3	中山 諒子	3	殿谷 依奈	2	森田 愛乃	2

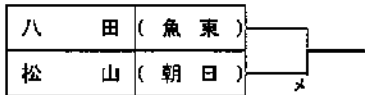
④砺波地区

学校	監督	先鋒	学年	次鋒	学年	中堅	学年	副将	学年	大将	学年	補員1	学年	補員2	学年
庄川	白山 昌人	嶋田 暁	1	古野 結菜	2	朝日 月楓	3	太田 わかば	1	太田 こころ	3	中原 美奈	1	朝日 心湖	1
井波	高田 毅	野村 晴花	1	遠藤 沙希	1	大谷 日菜里	2	久恵 翠葉	3	高橋 奏乃	3	寺脇 寧那	3	前川 昊奈	2
出町	齊藤 洋文	竹部 結衣	3	新井 遥日	3	五十里 梓	3	山下 滯音	2	平林 薫子	3	市山 花顔	3	長田 陽葵	2
福野	津田 昌明	大窪 小晴	3	安丸 あかり	1	正岡 京湖	1	齋藤 桜子	1	江田 朱音	3	小西 桃加	1	大藏 絆	1

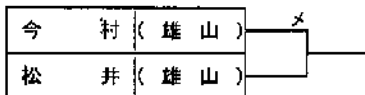
令和3年度 新川地区中学校総合選手権大会 剣道競技



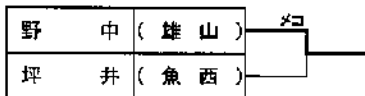
男子個人 3位決定戦



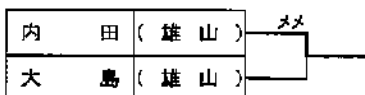
男子個人 決勝戦



女子個人 3位決定戦



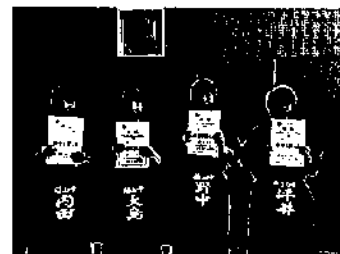
女子個人 決勝戦



個人戦受賞者



団体戦優勝 立山町立雄山中学校

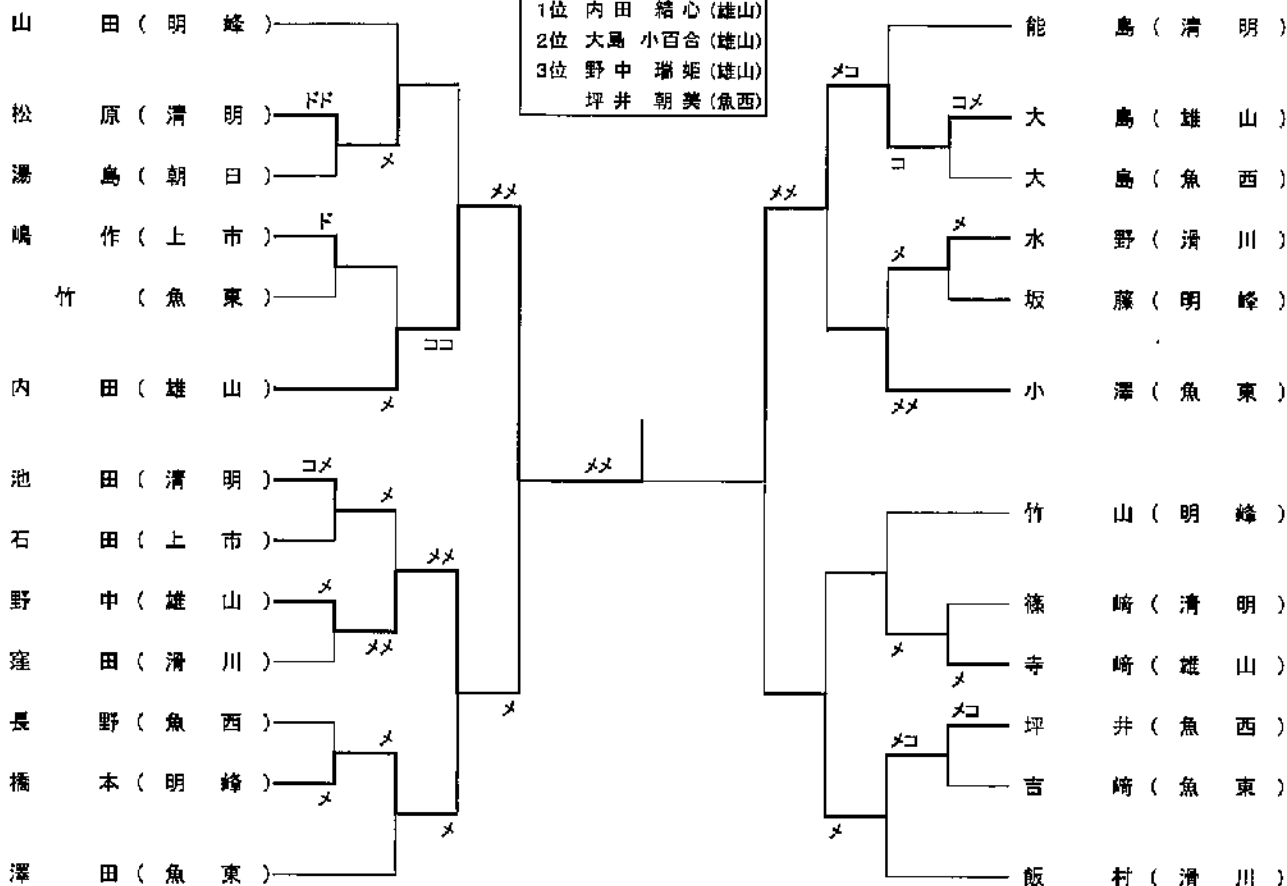


立山町立雄山中学校

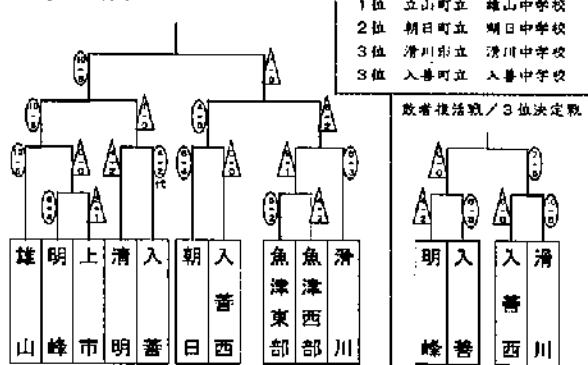


女子個人戦

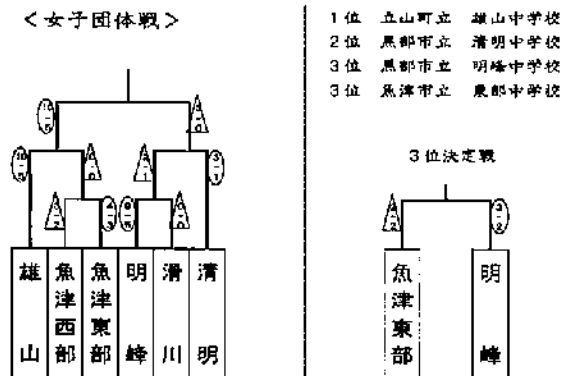
- 1位 内田 結心(雄山)
- 2位 大島 小百合(雄山)
- 3位 野中 瑞姫(雄山)
- 坪井 朝美(魚西)



<男子団体戦>



<女子団体戦>



【男子個人戦】
決勝戦は、一本も取られず勝ち進んできた昨秋覇者の今村(雄山)と松井(雄山)の同門対決となった。手の内を知り尽くした者同士の戦いは、わずかな隙をつきメンを先取した今村に軍配が上がり、連覇を果たした。3位には松山(朝日)と八田(魚津東部)が入賞した。

【女子個人戦】
昨秋覇者の内田(雄山)と一本も取られることなく勝ち進んだ大島(雄山)の同門対決となった決勝戦は、互いに気合い十分の戦いとなった。果敢に攻め合う試合展開の中、内田がメンを連取し勝負あり。内田が連覇を果たした。3位には野中(雄山)と坪井(魚津西部)が入賞した。

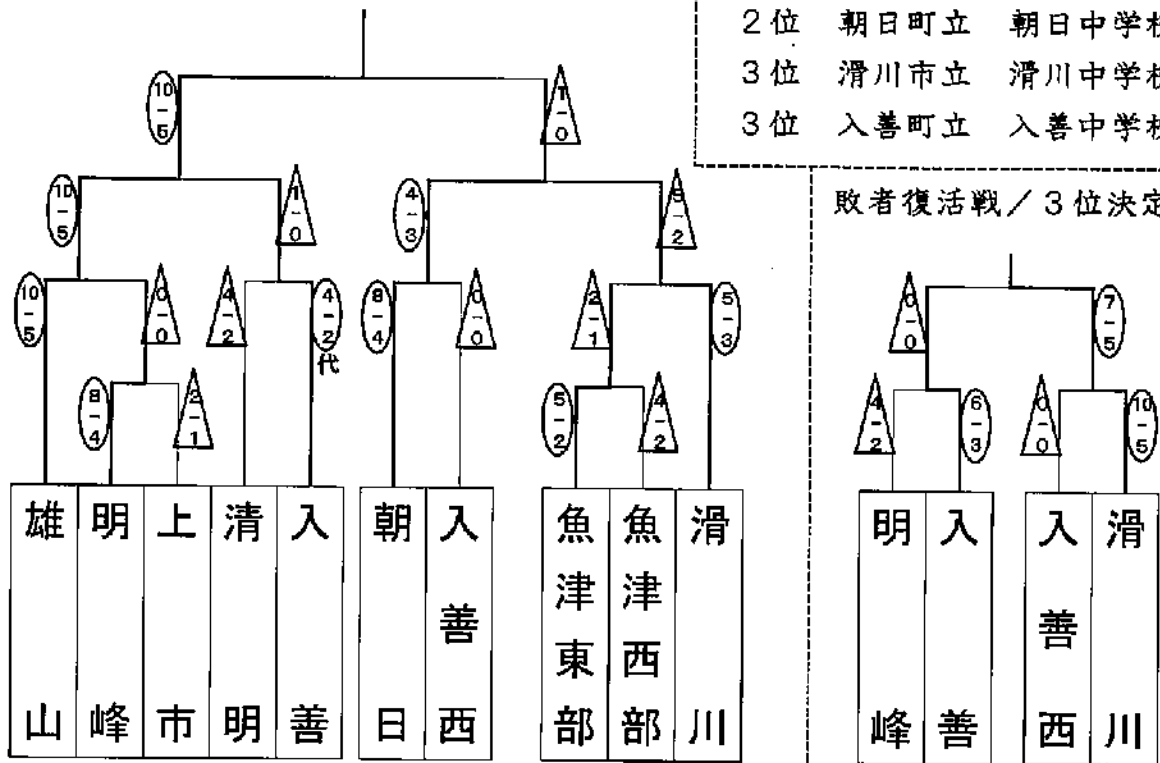
【男子団体戦】
全ての試合で5人全員が二本勝ちという圧倒的な強さを見せつけ、雄山中が優勝した。雄山中の奮気込みと勢いを感じさせる試合展開であった。県選手権大会での活躍が期待される。2位には5人でつなぐチームワークを発揮した朝日中が、3位には滑川中と入善中がそれぞれ入賞した。

【女子団体戦】
決勝戦は、5人全員が二本勝ちして勝ち進んだ雄山中と、粘り強い試合を展開して決勝に進出した清明中という、昨秋と同じ顔合わせとなった。清明中はそれぞれの選手が奮戦したが、勢いに乗る雄山中が圧倒的な試合を展開し、優勝を果たした。3位には明峰中と魚津東部中が入賞した。

令和3年度 新川地区中学校総合選手権大会 剣道競技 団体戦

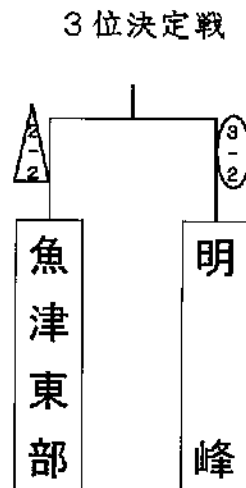
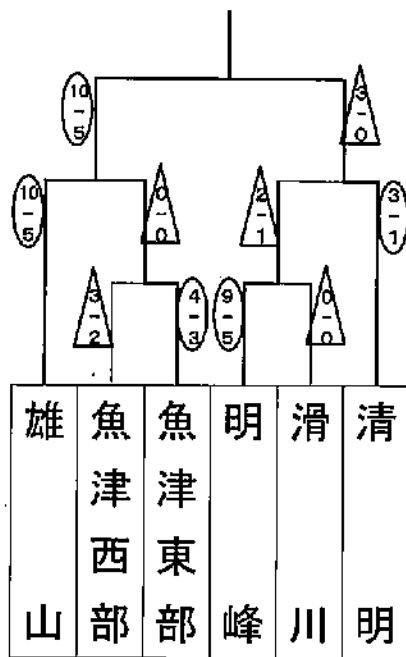
< 男子団体戦 >

- 1位 立山町立 雄山中学校
- 2位 朝日町立 朝日中学校
- 3位 滑川市立 滑川中学校
- 3位 入善町立 入善中学校



< 女子団体戦 >

- 1位 立山町立 雄山中学校
- 2位 黒部市立 清明中学校
- 3位 黒部市立 明峰中学校
- 3位 魚津市立 東部中学校



令和3年度 砺波地区中学校総合選手権大会 剣道競技 結果

令和3年6月19日(土)

於:庄川体育センター

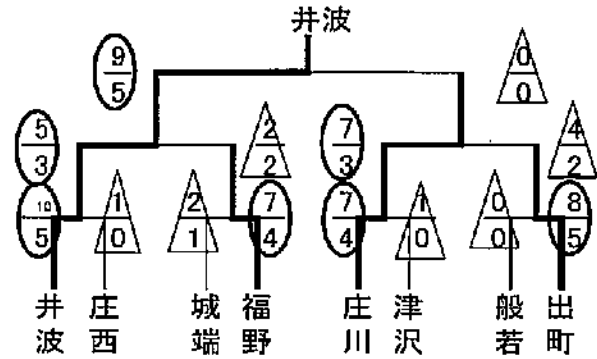
【男子団体】

1位 井波中学校 2位 庄川中学校 3位 福野中学校 4位 出町中学校

予選Aリーグ

	井波	城端	般若	庄川	勝点数	勝者数	本数	順位
井波		○9/5	○9/5	○10/5	3	15	2	1
城端	△1/0		○5/3	△4/2	1	5	10	3
般若	△0/0	△3/2		△5/2	0	4	7	4
庄川	△2/0	○6/3	○6/2		2	6	14	2

決勝トーナメント



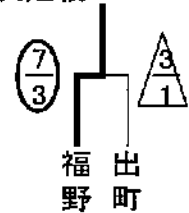
予選Bリーグ

	福野	庄西	出町	津沢	勝点数	勝者数	本数	順位
福野		○8/4	△4/1	○8/4	2	9	20	2
庄西	△2/1		△3/1	△2/1	0	3	7	4
出町	○5/2	○7/4		○5/3	3	9	17	1
津沢	△3/1	○4/2	△2/1		1	4	9	3

男子決勝戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果
井波	辻村	遠藤	高橋	野村	水口	10/5
	メメ	メコ	コメ	メメ	メメ	
庄川	吉田	山歩	玉井	石黒	山脇	2/0

順位決定戦



井波中対庄川中の対戦となった。先鋒戦、吉田がメンを先取するも、落ち着いて試合を進めた辻村が2本取り返し井波中が先鋒戦で勝利を収める。先鋒の勝ちで勢いをつけた井波中が、次鋒戦と中堅戦に勝利し、井波中が優勝を決めた。

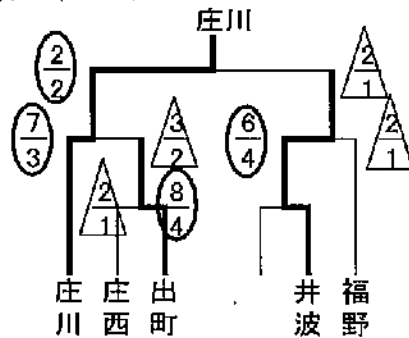
【女子団体】

1位 庄川中学校 2位 井波中学校 3位 出町中学校 4位 福野中学校

予選Aリーグ

	庄川	出町	井波	勝点数	勝者数	本数	順位
庄川		○4/2	○4/3	2	5	8	1
出町	△1/1		△2/1	0	2	3	3
井波	△0/0	○5/3		1	3	5	2

決勝トーナメント



予選Bリーグ

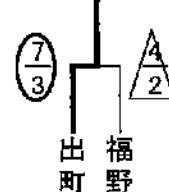
	庄西	津沢	福野	勝点数	勝者数	本数	順位
庄西			△3/1	1	1	3	2
津沢							
福野	○5/2			3	2	5	1

※津沢中学校は棄権

女子決勝戦

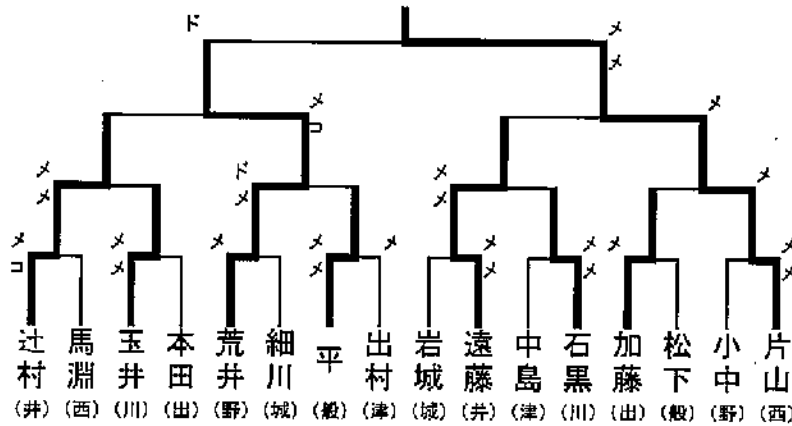
	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	結果
庄川	嶋田	古野	朝日	太わ田	太こ田	2/2
	メ			メ		
井波	野村	遠藤	大谷	久恵	高橋	2/1

順位決定戦

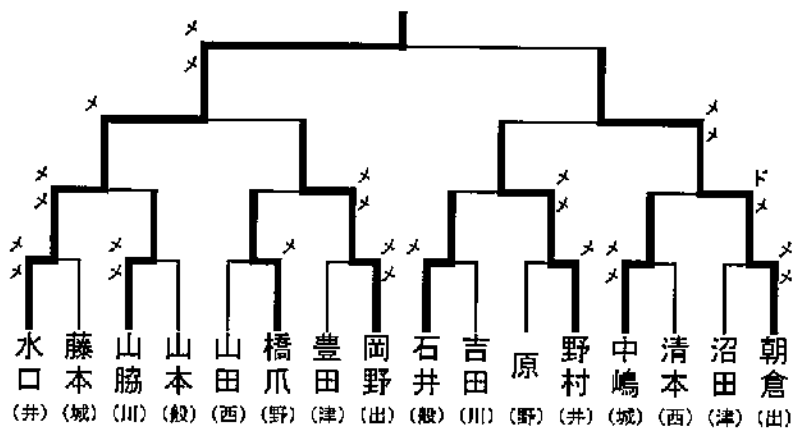
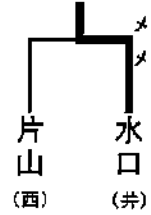


先鋒戦は庄川中が勝利するも、次鋒戦は井波中が取り返す。副将の太田が1本勝ちを収め、庄川中がリードをして大将戦となった。個人決勝戦と同じ顔合わせとなった大将戦は、両選手とも積極的に技を繰り出すも有効打突とはならず引き分けとなり、庄川中の優勝となった。

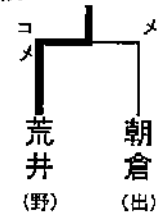
【男子個人戦】 1位 水口(井波) 2位 片山(庄西) 3位 荒井(福野) 4位 朝倉(出町)



決勝戦

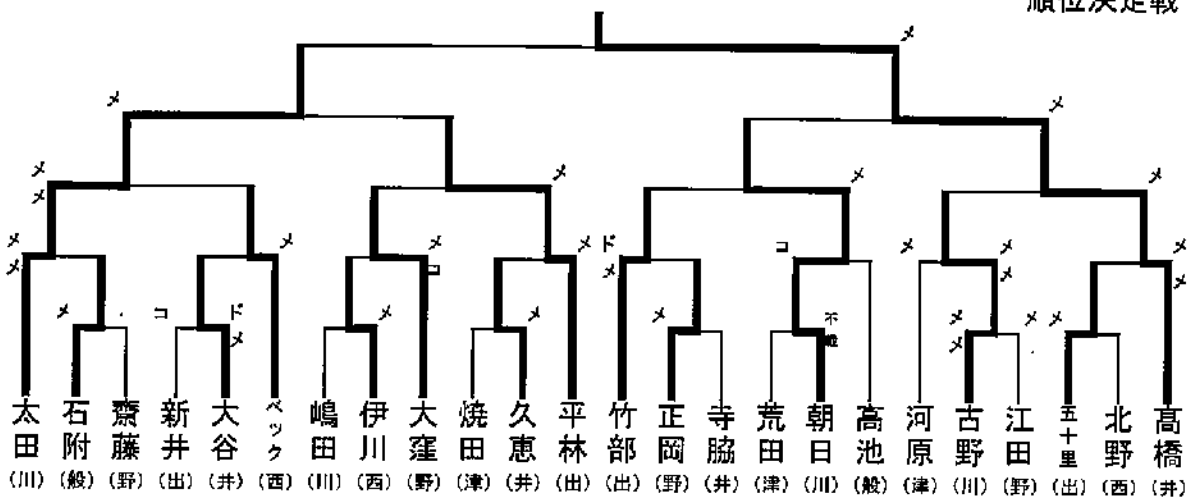


順位決定戦



新人大会3位の水口(井波)と、同じく3位の片山(庄西)の決勝戦となった。個人戦では初戦から伸びのある面を取って勝ち続けた水口がこの試合でもメンを先取る。片山が果敢に取り返そうとすところを、水口は狙いずまして面を決め、2本勝ちとなり個人戦を制した。

【女子個人戦】 1位 高橋(井波) 2位 太田(庄川) 3位 朝日(庄川) 4位 平林(出町)

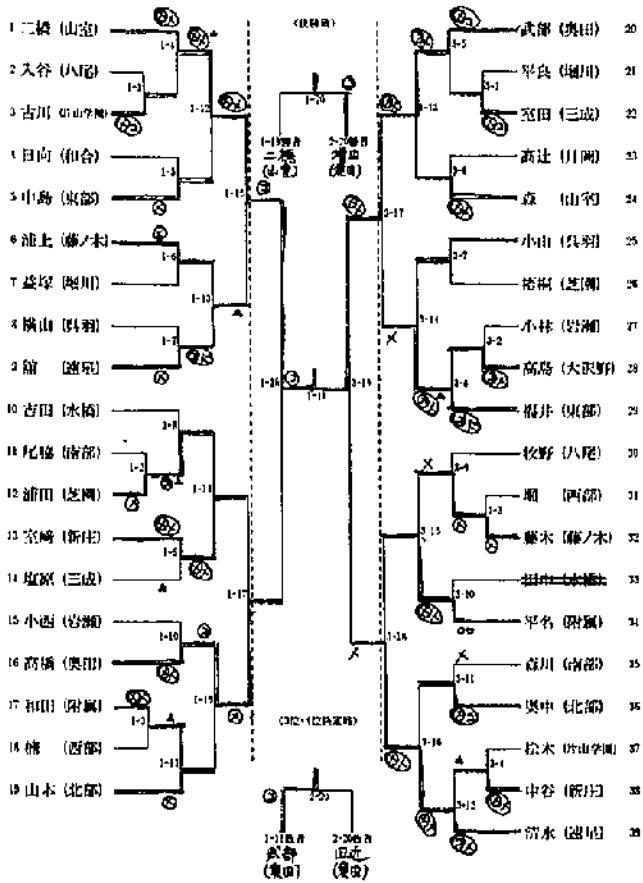


順位決定戦

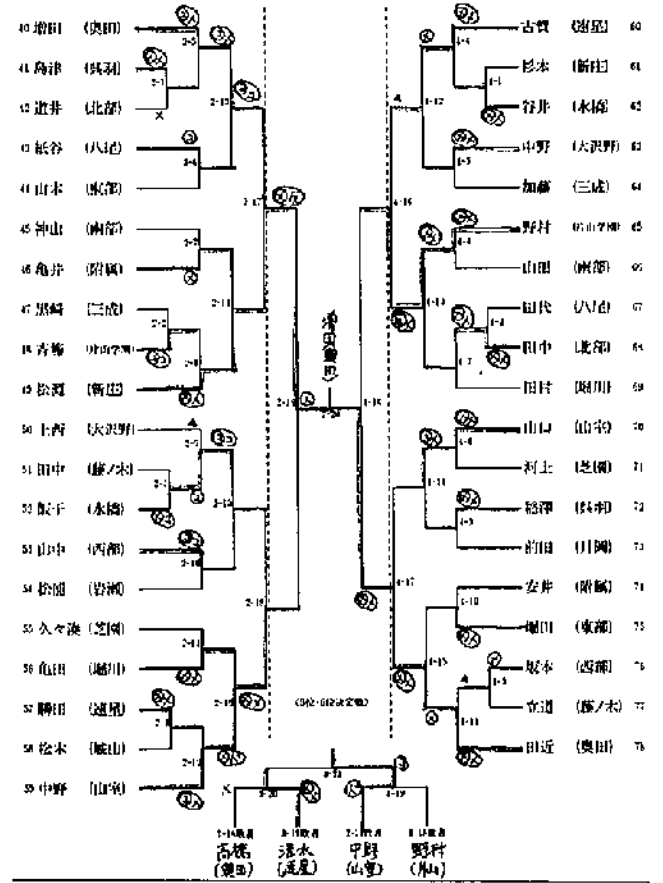


昨年新人大会覇者の太田(庄川)と、2位の高橋(井波)の決勝戦となった。高橋がするどい面で1本先取る。後がなくなった太田は果敢に攻め続けるが、返すことはできず、1本を守り抜いた高橋が優勝した。

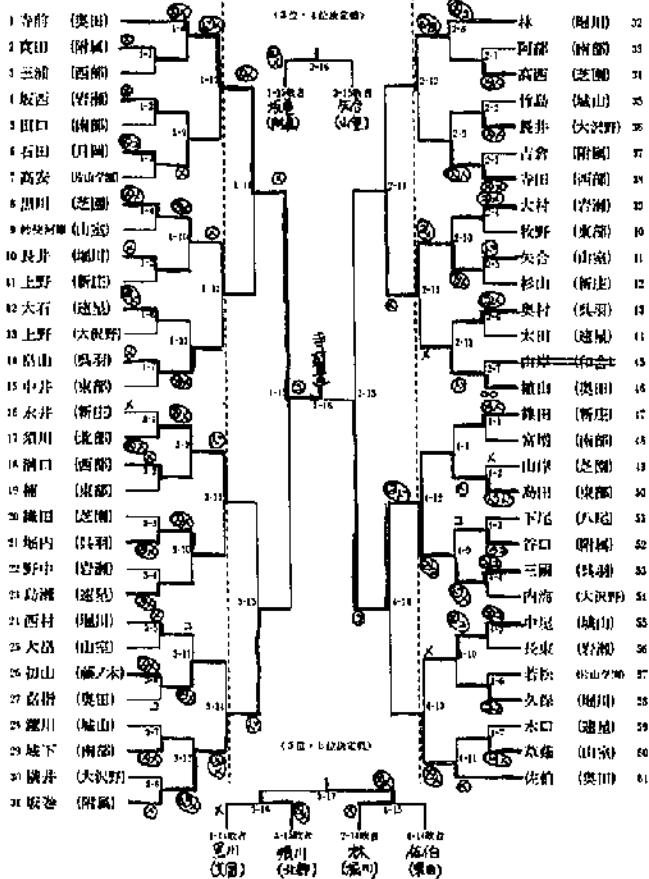
男子個人(1)



男子個人(2)



女子個人



○個人戦

【結果】

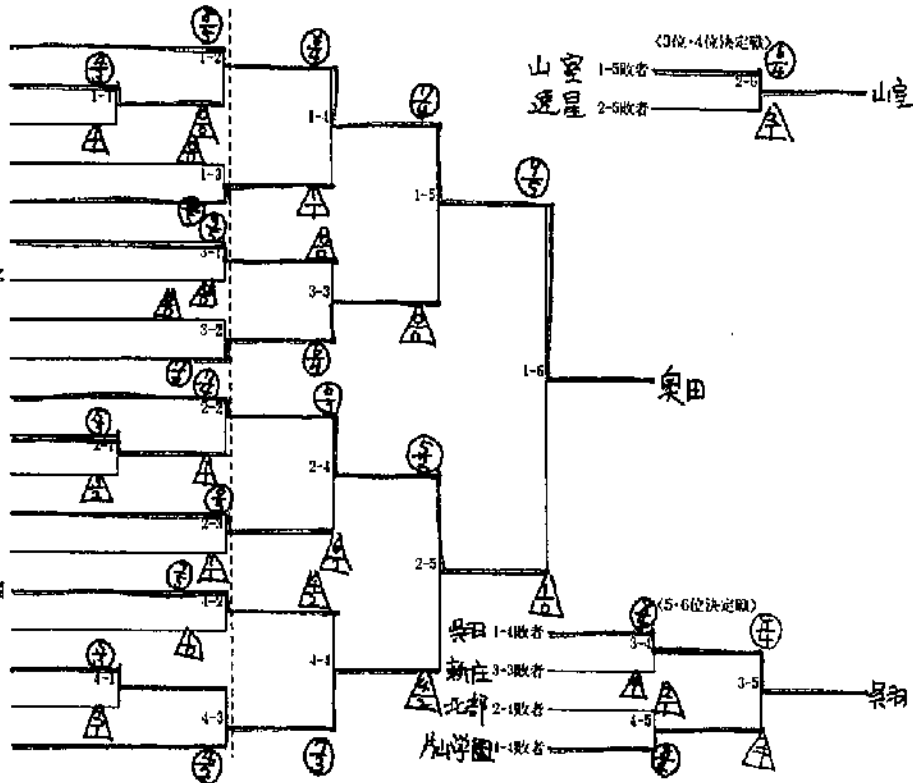
- 男子 1位 増田 成一郎 (奥田中)
2位 二橋 海斗 (山室中)
3位 武部 愛大 (奥田中)
4位 田近 謙 (奥田中)
5位 中野 仁太 (山室中)
6位 清水 京介 (速星中)
- 女子 1位 寺前 明保 (奥田中)
2位 三國 かな子 (呉羽中)
3位 坂巻 滯 (附属中)
4位 矢合 明里 (山室中)
5位 林 あい (堀川中)
6位 須川 こころ (北部中)

【戦評】

個人決勝は男女とも互いに思い切った技を得意とする者同士の決勝となった。男子は二橋に対し、意表を突いた小手を打ち、増田が優勝を果たした。女子はお互いに打ち合っている中で、寺前が小手を決め、優勝した。

男子団体

- 1 奥田
- 2 東部
- 3 西部
- 4 岩瀬
- 5 呉羽
- 6 新庄
- 7 大沢野
- 8 水橋
- 9 山室
- 10 附属
- 11 藤ノ木
- 12 南部
- 13 北部
- 14 三成
- 15 片山学園
- 16 八尾
- 17 堀川
- 18 芝園
- 19 速星



○団体戦

【結果】

男子

- 1位 奥田中
- 2位 富大附属中
- 3位 山室中
- 4位 速星中
- 5位 呉羽中
- 6位 片山学園中

女子

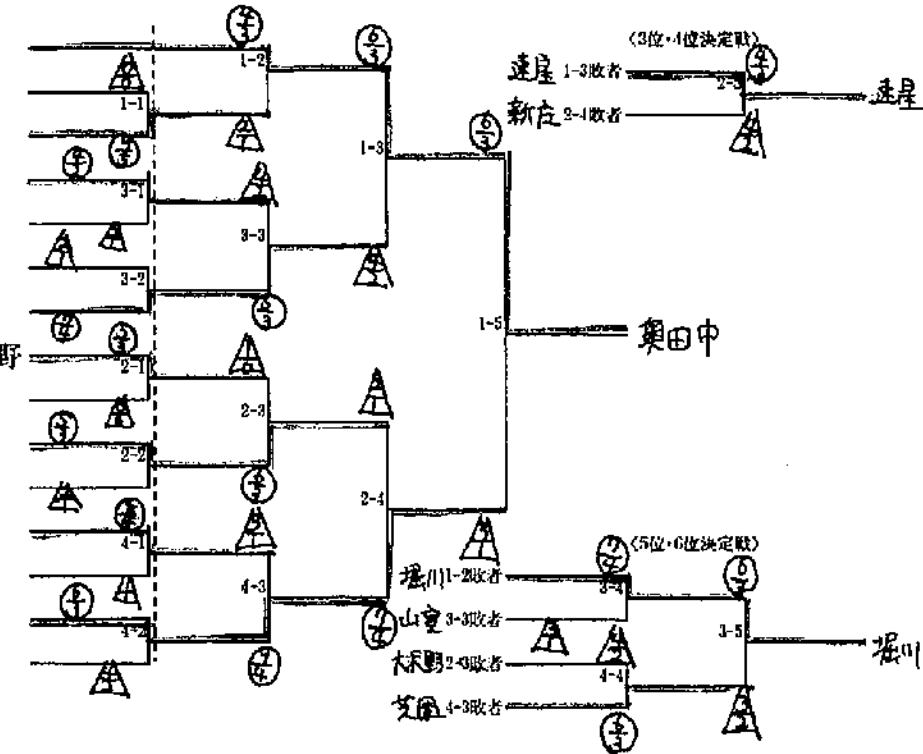
- 1位 奥田中
- 2位 呉羽中
- 3位 速星中
- 4位 新庄中
- 5位 堀川中
- 6位 芝園中

【戦評】

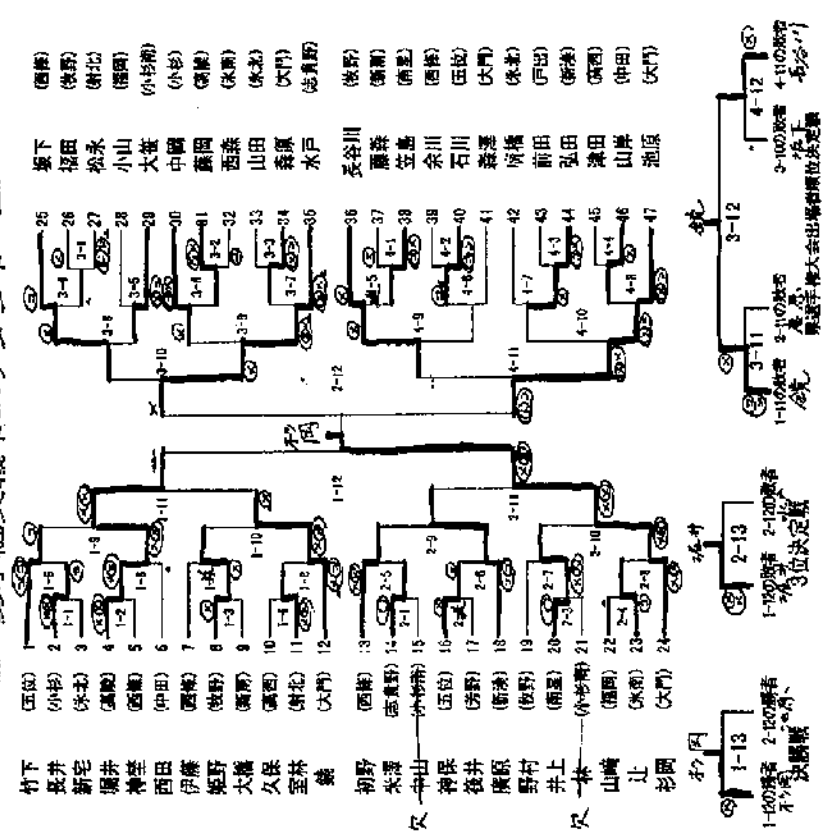
男子は奥田中学校が5勝し、優勝を果たした。女子は、4人で出場した奥田中学校が呉羽中学校に対して3勝し、優勝を決定づけた。

女子団体

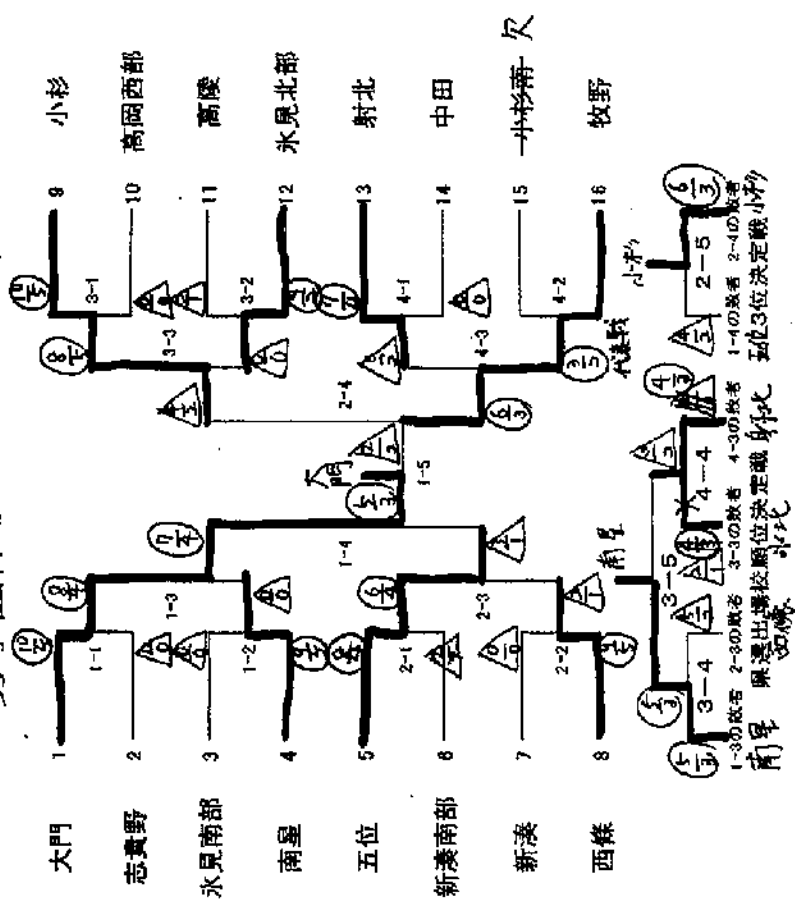
- 1 奥田
- 2 城山
- 3 堀川
- 4 山室
- 5 北部
- 6 岩瀬
- 7 速星
- 8 大沢野
- 9 東部
- 10 新庄
- 11 南部
- 12 芝園
- 13 西部
- 14 呉羽
- 15 附属



男子個人戦トーナメント



男子団体戦トーナメント



【男子団体戦結果】

- 優勝 大門中学校 2位 牧野中学校 3位 小杉中学校
- 4位 五位中学校 5位 南星中学校 6位 射北中学校

【男子個人戦結果】

- 優勝 杉岡 央鷹 (大門中)
- 2位 池原 幸宏 (大門中)
- 3位 堀井 晴素仁 (高陵中)
- 4位 水戸 一希 (志貴野中)
- 5位 鏡 光太郎 (大門中)
- 6位 長谷川 朔哉 (牧野中)

【戦評】

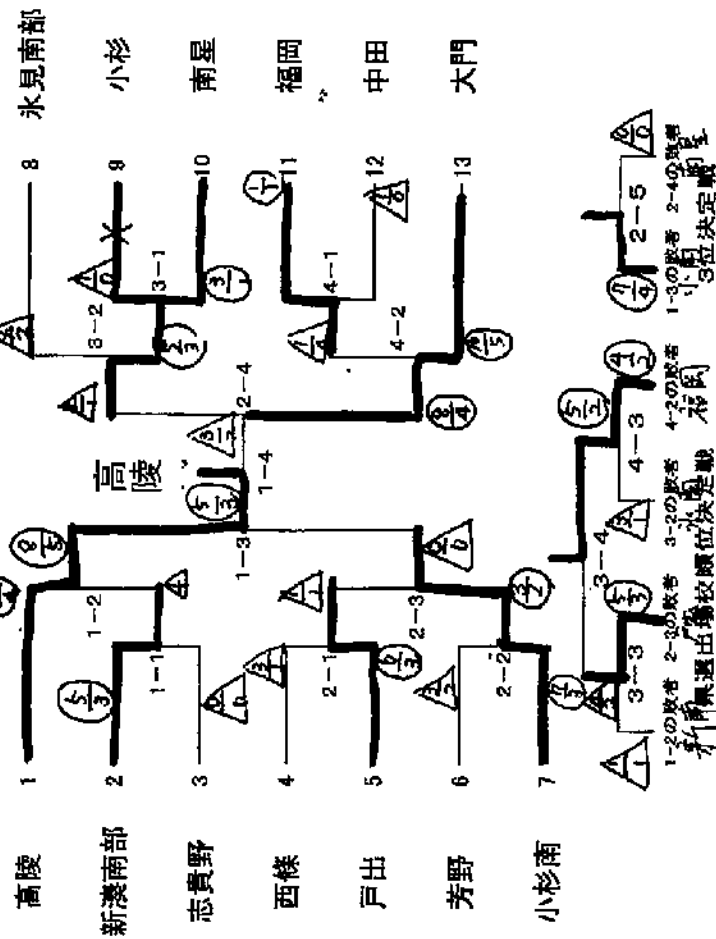
○団体戦決勝

先鋒戦、次鋒戦を制し勢いに乗った大門中であつたが、中堅戦、副将戦は牧野中が取り返し勝負は大將戦にもつれ込んだ。大將杉岡の大胆な面が決まり、大門中学校が優勝した。

○個人戦決勝

杉岡と池原の大門中同士の対決となった。互いに手の内を知っているからか、両者決め手が欠ける技の応戦となったが、杉岡の一瞬の隙をついた面が決まった。

女子団体戦トーナメント

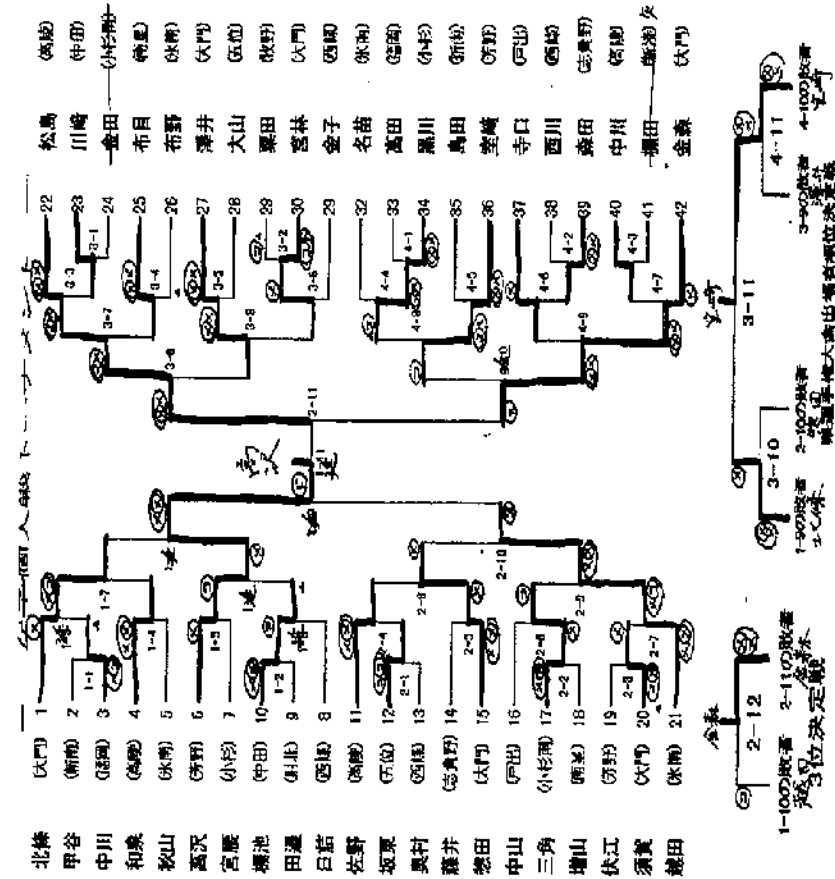


【女子団体戦結果】

- 優勝 高陵中学校 2位 大門中学校 3位 小杉南中学校
- 4位 南星中学校 5位 福岡中学校 6位 戸出中学校

【女子個人戦結果】

- 優勝 高沢 めい (芳野中) 2位 松島 和泉 (高陵中)
- 3位 金森 咲友菜 (大門中) 4位 越田 結美 (水見南部中)
- 5位 室崎 莉子 (芳野中) 6位 北條 美空 (大門中)



【戦評】

○団体戦決勝

先鋒戦から一進一退の試合展開が続いたが、機会を捉え、確実な有効打突を積み重ねた高陵中学校が、大将戦の前に勝利を収め優勝を果たした。

○個人戦決勝

互いに思い切った技を得意とする者同士の決勝となった。実力伯仲の両者であったが、相手の隙をうまくつけたドウで高沢が秋の新人戦に引き続き個人優勝を成し遂げた。

第56回富山県中学校選抜剣道大会

令和2年度11月7日

庄川体育センター

団体戦	順位	男子	女子
	優勝	奥田中学校	奥田中学校
	2位	雄山中学校	雄山中学校
	3位	大門中学校	大門中学校
	3位	井波中学校	出町中学校

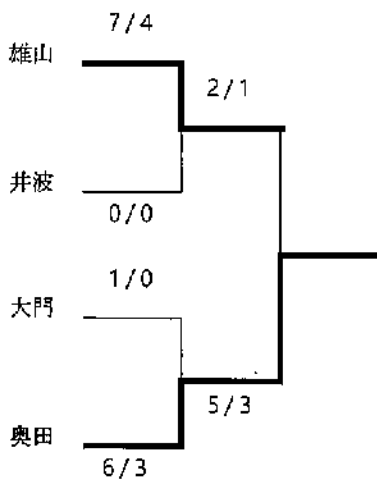
<男子個人>

- 1位 二橋 海斗 (山室中)
- 2位 田近 謙 (奥田中)
- 3位 今村 勇 (雄山中)
- 3位 清水 京介 (速星中)

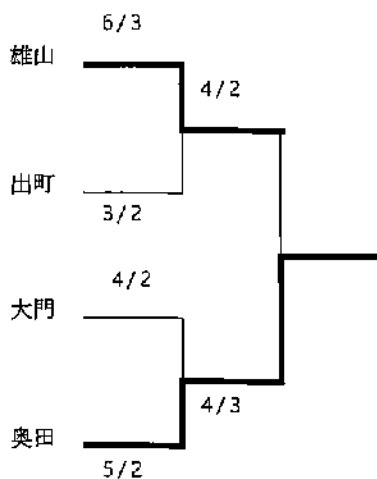
<女子個人>

- 1位 高橋 奏乃 (井波中)
- 2位 内田 結心 (雄山中)
- 3位 高澤 めい (芳野中)
- 3位 太田 こころ (庄川中)

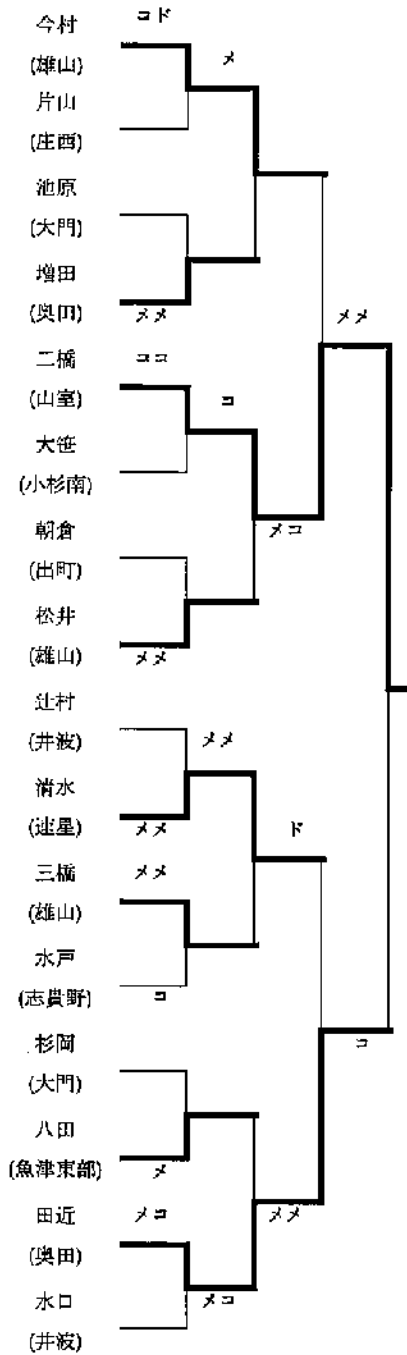
<男子団体結果>



<女子団体結果>



<男子個人結果>



<女子個人結果>

